特集

社会人セミナー

原　理恵

純真学専門部会員

Seminar for a member of society

Rie HARA

Membership of the Junshin Education Committee

【要旨】　本学における“社会人セミナー”は，学園訓である“気品，知性，奉仕”の精神を基盤に「書」と「茶道」を中心とした日本の伝統文化を通して，社会人としての基本的な在り方や人格形成に必要な知識・所作を学ぶと同時に，その心構え・礼儀を理解することを目的とした科目である．
本稿では，科目のねらいと概要，授業評価を踏まえた教育効果や課題について述べる．

緒言

2006年に経済産業省は，職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力であるとして“社会人基礎力”を提唱した．これは「前に踏み出す力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」「チームで働く力（チームワーク）」の3つの能力に分類された12の能力要素で構成されている．近年のIoT・ビッグデータ・AIなどといった技術革新や「人生100年時代」と言われる社会背景のもと，この“社会人基礎力”の見直しが行われ，2018年に“人生100年時代の社会人基礎力[1)]”が提唱された．これは「これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で，ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義されている．これまでは大学教育，就職・採用，新入社員研修など，若年層を中心とした限られた年代を対象としていたが，新たな社会人基礎力では若者からシニア層まで全ての年代が対象となったことは大きな変更点である．基本的な内容は，これまでの社会人基礎力の「3つの能力 / 12の能力要素」から変更はないが，一方で「3つの視点」として，①何を学ぶか（学び），②どう学ぶか（統合），③どう活躍するか（目的）という考え方が加わった．これまでの社会人基礎力が能力について述べられているのと比較すると，“人生100年時代の社会人基礎力”は「視点」や「振り返り」という能力以外の内容が盛り込まれている．自らが能力を発揮するにあたり，この3つの視点のバランスを図り続けることで，変化する社会の中で自らの立ち位置が常に相対化され，現在の複雑・不透明・不確実な時代を生き抜くための‘キャリア・オーナーシップ’を個々人が見定めることに繋がる．つまり“人生100年時代の社会人基礎力”とは，「自らのキャリアを自ら考え，実現のために“社会人基礎力”をベースに行動し，自ら自分を変えていける力」[2)]と言える．

さて，本学における“社会人セミナー”は，学園訓である“気品，知性，奉仕”の精神を基盤に，「書」と「茶道」を主とした日本の伝統文化を改めて捉え直し，歴史的に形成され世代を超えて受け継がれた精神的遺産の素晴らしさを体得するとともに，伝統文化の奥深さや豊かさ，価値や意義の理解を進め，円滑な人間関係を築くことのできる人材の育成を目指している．日本の伝統文化を学ぶことの意義は，日本人としてのアイデンティティの確立や文化を創造する豊かな感性と創造力の育成，他国の人々との文化交流の促進にある[3)]と言われている．前述の“人生100年時代の社会人基礎力”の3つの視点の，①何を学ぶか，②どう学ぶか，において，人生において常に学び続けることや多様な体験・経験，能力，キャリアを組み合わせ統合することが提唱されているが，この科目で日本の伝統文化を改めて学び捉え

令和2年9月1日
純真学園大学　純真学専門部会

直し，その奥深さ，豊かさを五感で感じ，自らの経験や能力として体得することは，現在の複雑・不透明・不確実な時代を生き抜くための礎のひとつとなるのではないかと感じている．

本稿では本学における“社会人セミナー”について概説する．

授業概要，学習目的，授業計画

本科目の授業概要，到達目標，授業計画を以下の表1に示す．

表１．「社会人セミナー」シラバスの概要

開講時期：1年夏期集中	形態：演習	時間（単位）：15（1）	必修
授業の概要 学生から社会人へのスムーズなマインド・チェンジを可能とする目的で，本学の学園訓である“気品，知性，奉仕”の精神に基づき，社会人としての基本的な在り方や人格形成に必要な知識・所作を学ぶと同時に基本動作・基礎力を演習形式で学び，社会人としての必要な心構え・礼儀を理解する．これらを習得することにより，円滑な人間関係を築く能力と態度を養い純真学園訓を理解する．			
到達目標 1. 社会人として基本となる知識とマナーについて説明できる． 2. 日本文化のおもてなしの心を学び，先人たちの知恵と実践力について説明できる． 3.「温故知新」「汲古創新」の志で学園訓を自己発展させるとともに，周囲に発信することができる．			
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	若者よ旅へ出よう！～日本津々浦々，世界71カ国ひとり旅で学んだもの～		
3	書は人なり　～空海の書線に見る，その人間性と芸術性～		
4	知の宝庫　図書館へ行こう！　新聞を読もう！		
5	茶道の歴史と千利休「茶道の世界」（茶道の流派と発展）		
6	茶道の心得と実践（作法と茶道具）		
7	茶道と「一期一会」 茶祖：利休の教え「利休七則」（人との出会いを大切に）		
8	若者よ，感性を研ぎ澄まし，学園短歌・学園俳句・学園詩・学園随筆・学園コラムを書こう！		

授業展開

授業は，1年生を対象に夏期集中講義となっている．学生が授業に興味関心を持ち，能動的に参加できるよう登壇し発表する機会を設けたり，「書」のパフォーマンスや「茶道」の基本的マナー・礼儀を体験するといった演習を多く取り入れている．以下，具体的な授業内容について述べる．

＜若者よ旅へ出よう！～日本津々浦々，世界71カ国ひとり旅で学んだもの～＞

本時の目的は，かつては人生そのものが長い「旅」と考えた人々が居たことを知り，日々の生活が「旅」であることを理解し，日常の一つひとつの行動を意義あるものと捉える態度を養う．また，旅の本質が「景色との出会い」以上に「人との出会い」にあり，コミュニケーション力を養う場でもあることへの理解である．

授業の導入では，「旅」を詠った人々，「旅」で詠った人々を紹介し，俳句や短歌により日本人の「旅」観を諸外国と比較することで日本人の特徴を掴む内容となっている．さらに履修学生は，自分たちの「旅」に関するアンケート結果を踏まえその傾向を捉えたり，教員の旅の写真やスライドを通して「旅」を疑似体験し，日本および世界各地の人々の「考え方」に触れることができる．それにより学生は「人々との出会い」を通じてコミュニケーション能力を養ったり，視野や興味が広がっていくことを理解する．授業の最後には，各地方の出身者代表の学生が登壇し，「観光大使」となって出身地のお国自慢を行う．これは，学生自身が捉えた出身地とその学生の故郷への思いを垣間見ることができ，学生たちにも好評である．

＜書は人なり＞

本時のねらいは，書跡には「個性」があり，その歴史的集合体が現在の書道史を作り上げてきたことを理解し，筆跡にはその人の個性が表れることを学ぶとともに，今後自分の「書く」姿勢や態度を考えること，また，空海の書線とその発想の豊かさを学び，その独創的な生き方を参考にすることである．

授業の導入として学生は，古典中の「書体」の変遷を通して，それぞれの「書」のもつ雰囲気の違いや自身の好きな書体の傾向を知る．さらに学生は，スクリーンに映し出される自分たちの（鉛筆文字の）書跡が，上手下手の基準ではなく，個性や表現であることを学ぶ．また，教員から空海の書跡が紹介されると，学生は彼の書線とその発想の豊かさ，独創的な生き方を改めて知る．授業の最後は，教員および書道サークルの学生が登壇し，ステージ上で書のパフォーマンスを行う．書道サークルの学生たちは，特大筆を使い悠々とリズミカルでしなやかに筆を運ぶ．その姿を間近で見た学生たちは，その迫力に圧倒され，静かに固唾を呑んで見守る。こうして出来上がった「書」は書いた学生の個性あふれる作品となっており，「書」の魅力を改めて思い知る．

＜知の宝庫　図書館へ行こう！　新聞を読もう！＞

本時の目的は，人間の思考の広さ・深さには語彙力が大きく関係していることを理解し，「言葉」探しの宝庫は図書館・新聞であり，日々努めて文字に接する態度を養うことである．

本学学生の新聞・図書館との関わりについてのアンケート集計結果を踏まえ，図書館にある古典落語の DVD を視聴したり，新聞5社を読み比べ，同一の社会事象の捉え方が各社でどのように違うのか検討する等，図書館や新聞の魅力および面白さに触れ，親しみを持てるような授業内容となっている．

＜若者よ，感性を研ぎ澄まし，学園短歌・学園俳句・学園詩・学園随筆・学園コラムを書こう！＞

本時の目的は，学生一人ひとりが学園訓“気品，知性，奉仕”を今後の自身の指針として捉えることができることと，それについて各自が主体的な解釈を持ち，詩や短歌・俳句・随筆・コラム等で表現が出来ることである．DVD を視聴し，学園訓や学園の歴史を概観した後，学園訓である“気品，知性，奉仕”についてのイメージを学生個々が具体化していく．学生は，それを俳句・短歌・五行歌・詩・随筆・コラム（短評）・小説のいずれかで表現する．学生から提出された成果物は，「純真を詠う」として，サークルメンバーである学生の写真やイラスト，書道とともに毎年冊子にまとめられ，図書館等に収められている．

＜茶道＞

「茶道」をテーマとした授業では，日本文化の中での茶道とその歴史および千利休，茶道を通してみた学園訓についてを講義形式で学び，お茶会やそれにとどまらない社会人に必要な礼儀作法について演習を行った．

日本文化は，日本の風土（自然）と人間のかかわり合いの中で培われ，それが日本人の生活そのものとなりその中から生まれたと言われている．また，日本文化の根底にある自然への脅威や畏敬・豊かな自然から学び，それが外国からの宗教や武道・芸道や文化と融合し「人との協力」「人を思う心」が「おもてなしの心」につながり，広がっていったと考えられている．おもてなしの心とは「人を大切に

思う心」であり，「おもてなしの心」を形に表したもののひとつが茶道である．学生は，茶の歴史に触れ，日本人の「わび・さび」を感じる心や，内面を大切にする気持ちといった禅なる精神が日本人の心に深く根付いていることを学んだ．さらに，茶道の心得としての「和敬清寂」やお茶会での礼儀の基本とマナーを体験し，茶祖である利休の利休七則を学ぶことは，学園訓である「気品」「知性」「奉仕」へも通ずるところがあり，「茶道」を通じて，学園訓を体現した人材の育成へと繋がることを期待する．

授業評価

本科目の学生の授業評価（図1，2）は，開講初年度から経年的に向上している．平成28年度の授業評価では，「専門職を目指す学生として，日本文化を知る意義を感じた」と答えた学生は53.3%（そう思う，非常にそう思う，の割合，以下同様），「授業の内容に興味・関心を持った」46.2%，「授業を通して，礼儀・作法について理解できた」66.7%，「授業態度は良かった」12.2%，「授業に意欲的に取り組めた」43.1% にとどまった．この結果を踏まえ，純真学専門部会では学生が学ぶ意義を感じ，学生の意欲を引き出せるような主体的，能動的に学ぶための授業内容や方法の改善を試みた．授業を担当する教員とも検討し，講義を受けるだけではなく，授業内容に様々な形で学生が参加し，できるだけ多くの学生が登壇・体験ができるよう授業内容の変更を行った．また，「書」「茶道」に限らない日本文化を体験できるよう検討し，平成30年度・令和元年度は，筑前琵琶の演奏や講話を行うなど新しい内容も取り入れた．このように，いつくかの改善を試みた結果，令和元年度の授業評価では「専門職を目指す学生として，日本文化を知る意義を感じた」と答えた学生は80.9%（そう思う，非常にそう思う，の割合，以下同様），「授業の内容に興味・関心を持った」74.3%，「授業を通して，礼儀・作法について理解できた」86.1%，「授業態度は良かった」61.1%，「授業に意欲的に取り組めた」74.2%，と改善した．また，それ以外のすべての項目においても評価は上がっており，一概に比較はできないが巻末の授業評価（自由記載）にもあるように，日頃から触れる機会のない体験を授業に取り入れたことで，学生はより興味関心がわき，経験値や視野が広がった実感を得ることが出来たのではないかと考える．また，2年生や4年生の茶道サークル部員が TA として参加し，協力したことも学生の興味を引き，評価に繋がったのではないかと推察する．何よりも学生たちは，自らが体験することを楽しんでおり，その時間を共有することで充実した授業時間としている様子が大変印象的であった．

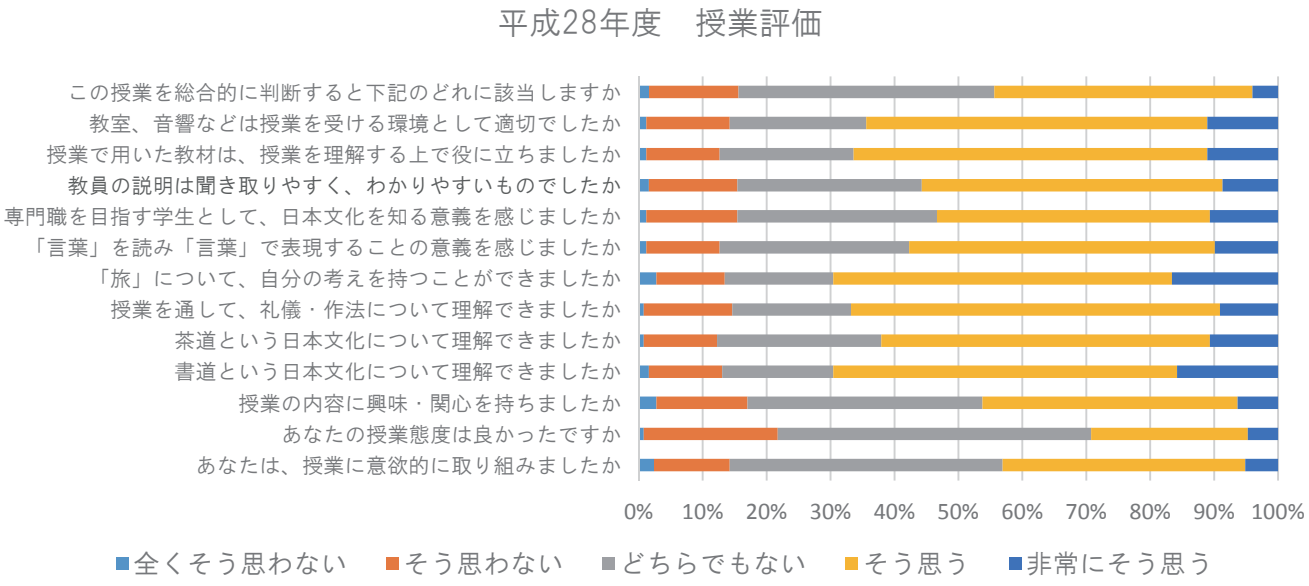

図１．平成28年度　授業評価　回答者253名（回答率 95.8 %）

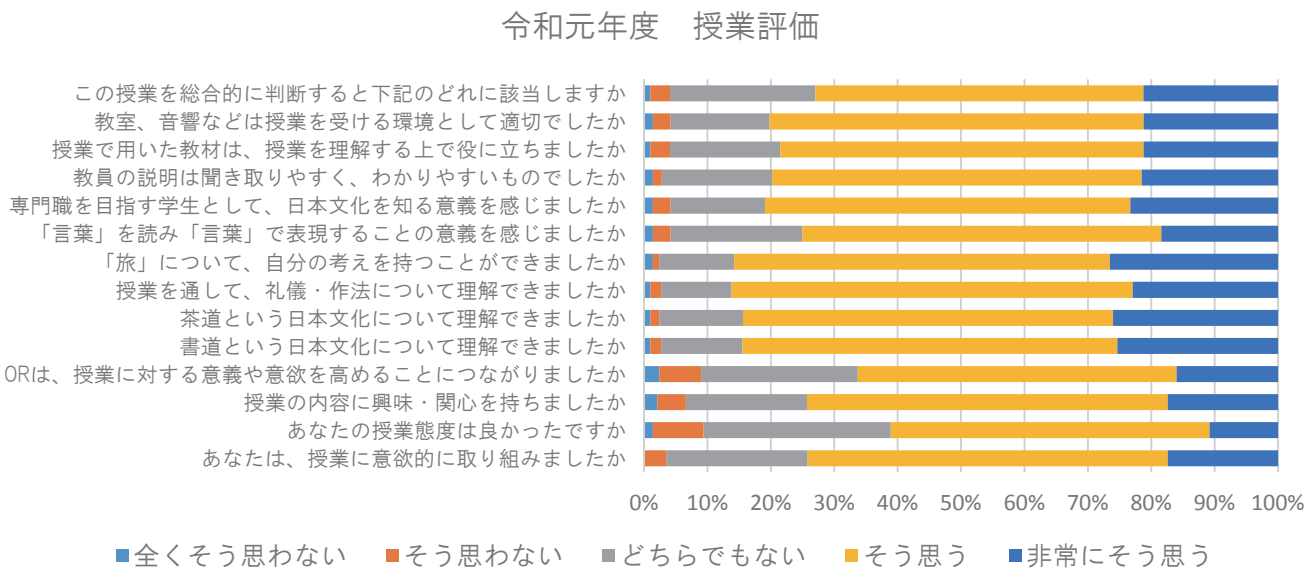

図２．令和元年度　授業評価　回答者288名（回答率83%）

課題・抱負

授業評価が上がった一方で課題となるのは，夏期集中の短い期間に一斉に行う授業の演習企画と運営である．授業の準備に時間と人員を要し，専門部会員をはじめ担任や学年担当教員などの負担が大きいことも否めない．従って，今後は日本文化に触れる機会も残しつつ，学生のキャリア支援のための教育科目として，例えば進路対策委員会と協同し，就職活動や日常生活に通じる礼儀作法やマナーを身に着けることができる授業内容も検討していく必要があると思われる．さらにもう少し視野を広げたところから概観すると“人生100年時代の社会人基礎力”の‘キャリア・オーナーシップ’に基づき，自らのライフステージと各段階でのリフレクションの必要性や自らの成長を見据え，常に課題を持ち努力し続けることのできる人材の育成を目指しつつ，生涯にわたるキャリアプランの意義と重要性，その具体的な支援をも行っていかなければならいと感じる．

おわりに

冒頭でも述べた経済産業省が提唱した“人生100年時代の社会人基礎力”の「気づき」の設定として，ライフステージ各段階での‘問い’が示されている．高等教育での‘問い’は，「どんな専門分野を修めて社会で活躍するための礎とするか（①何を学ぶか【学び】）」，「年代，地域，文化などを超えた多様な人と関わっているか（②どう学ぶか【統合】）」，「得手不得手を踏まえて，企業・社会とどのように関わりたいか（③どう活躍するか【目的】」1）である．本学の学生は，卒業時の最重要課題を国家資格取得としており，その取得なしには目指す職業にも就けない．一方，現在，世界は新型コロナ感染症による様々な課題に直面しており，その最前線で機能している医療職者はどれだけの困難に立ち向かっているのか，想像を絶する．このような危機に直面した時に発揮されるのは，医療専門職としての専門知識に偏らない幅広い分野の知識や経験，人を慈しむ精神を持つ人間力であると実感する．そして，それを自分の目指すキャリアにどう活かすのか，困難にどう立ち向かい乗り越えていくのかを自ら考え，解決策を導いていく能力を備えた人材の育成がますます必要不可欠であると感じる．この日本の伝統文化を学ぶ本科目の目指すところは，学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の精神をもとに円滑な人間関係を築く能力と態度を備えた人材育成にある．それは，医療者に必要な人格要素とアイデンティティの形成，

ひいては医療者としてのコアコンピテンシーに繋がると言える．この科目で得た経験・体験が，学生の今後の人生における自己実現や社会貢献に向けて行動するための一助となることを願うばかりである．

引用・参考文献

1）経済産業省 わが国産業における人材力強化に向けた研究会 - 報告書（2020.8.24 検索）
https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/20180319001.html
2）キャリコン サロン：コラム「人生100年時代の『社会人基礎力』とは？〜いつまでも必要とされ続ける人材になるために〜」（2020.8.24 検索）
https://career-salon.jp/1172
3）指導資料「日本の伝統・文化理解教育の推進」．東京都教育委員会編・発行．2008